



発行人 公益財団法人 愛媛県消防協会
松山市築山町1番35号
電話(921)8517番
会長 大西 浩司
一部55円

公益財団法人愛媛県消防協会 定時評議員会・臨時理事会

令和6年5月17日、16名の評議員ご出席のもと定時評議員会がえひめ共済会館で開催されました。

令和5年度の事業報告、決算報告並びに監査報告ののち、理事・監事の任期満了に伴う選任、評議員の辞任に伴う補欠選任について賛成多数で可決されました。

評議員会に引き続き、臨時理事会が行われ、協会長の選任ならびに副会長(支部長)の選任が行われました。

協会長には松山市消防団・大西浩司団長、副会長(東予支部長) 西条市消防団・戸田基団長、(中予支部長) 松前町消防団・嘉村重雄団長、(南予支部長) 宇和島市消防団・梶田浩団長が就任されました。



〈大西協会長 就任あいさつ〉
災害はいつでもどこでも発生するといふことを深く認識し、えひめ消防が丸となって取り組んでいけるよう、人と人とのつながりを強化し、協会に対する理解をいただきながら、市町と一緒に関係していきたくと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。

第99回殉職消防職団員慰霊祭

令和6年5月22日(水) 午前10時30分から愛媛県護国神社(松山市御幸町)において、第99回殉職消防職団員慰霊祭が執り行われました。

御霊に対し、あらためて敬意を表するとともに、地域の消防として、今後も安全安心な地域づくりの実現に邁進するとともに、消防活動の安全確保に努めて参ります。また、愛媛県全体が災害に強い街となるよう、引き続き、環境整備に努めて参りたいと存じます。

ご参列いただきました皆様方に心からお礼申しあげます。



二〇二四年度全国統一防火標語
守りたい 未来があるから
火の用心

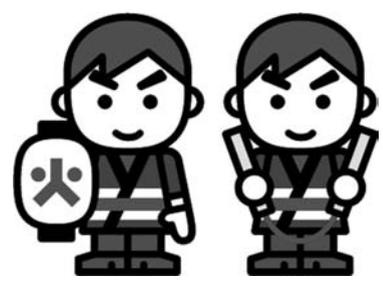
令和6年度愛媛県消防大会

日時 令和6年5月22日(水) 13:30~15:40
場所 愛媛県民文化会館サブホール

『本日ここに愛媛県下各消防関係機関が集結し、互いの連携を深められることを大変うれしく思います。この大会を契機にますます地域防災力が強化されていくことを期待します。』との、愛媛県消防協会・大西会長による開会宣言で幕を開けた今大会。愛媛県議会議長、愛媛県警察本部生活安全課長をはじめ、愛媛県市長会長、砥部町長・松前町長・鬼北町長のご臨席を賜り、愛媛県下多数の消防・防災関係者の参加を得て開催することができました。

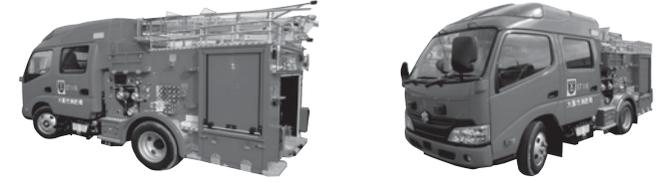
愛媛県消防団協力事業所知事表彰では、学校法人河原学園大原簿記公務員専門学校愛媛校、富永建設有限会社、一般社団法人松山市医師会松山看護専門学校、3事業所が、愛媛県婦人防火クラブ連絡協議会 会長表彰では、新居浜市金子中消防分団区婦人防火クラブが表彰されました。

また、意見体験発表では、松山市消防局・加藤駿太さんによる「ひろがれ! ジュニアバイスタンダー!」、伊予市婦人防火クラブ連絡協議会・光芳文美恵さんによる「伊予市婦人防火クラブの取り組み」が披露されました。



こまめな水分補給と休息を!
今年の夏の暑さは格別とのこと くれぐれもご自愛くださいませ。

http://www.ogawa-pump.co.jp
OGAWA 仕様 消防ポンプ自動車(Made In 愛媛)



豊富な収納力が1台2役分の活躍を。
多くの資機材を積み込みながらも、初期消火に力を発揮する水槽を搭載。コンパクトにまとめあげたCD-I
小川ポンプ工業株式会社 愛媛支社
〒790-0045 松山市余戸中6丁目9番52号
TEL: 089-972-2392 FAX: 089-972-2400
E-mail: ehime@ogawa-pump.co.jp

株式会社 新日本ライフテック
http://www.sn-lf.com

消防防災設備 / 給排水設備 設計・施工・保守
各種消防ポンプ車 / 救急車 / 高度医療機器 販売
防災用品 / 各種消火設備 販売

日本機械工業 ヤマトプロテック
株式会社代理店 株式会社代理店

南予営業所 〒796-0201 愛媛県八幡浜市保内町川之石1-237-130
tel.0894-36-3322 fax.0894-36-3323

本社 〒790-0054 愛媛県松山市空港通2丁目18番32号
tel.089-908-5766 fax.089-908-5767

支部だより

「水防訓練」について



新居浜市消防団

団長 山内 敏男

新居浜市は、燧灘沿いと標高1800mに及ぶ高知県と接する石鎚山系にはさまれており、扇形に広がりを見せる平野部、丘陵地及び山地からなっております。また南方にそそり立つ赤石山系にある別子銅山は、かつて世界有数の有名な銅鉱山であり、現在の工業都市新居浜と住友グループを生みだし、昭和48年に閉山した後も関連遺産が数多く残されている、風光明媚な所です。

新居浜市消防団は、1団本部、17分団、定員792名、消防ポンプ自動車23台、小型動力ポンプ付積載車26台を保有し、消防団年間行事計画に基づき、各種消防団活動及び災害対応を実施しております。

新居浜市では、平成16年に台風などによる豪雨災害により、9名の尊い命が犠牲となる災害が発生しました。このような水害から被害を未然に防ぐために、梅雨時期などの本格的な出水期前に毎年水防訓練を実施しております。この水防訓練は、地域防災の中核を担う消防団と行政等が連携を図るとともに、水防技術及び意識の向上を目的として実施しているものです。今年も各地区別に6月3日、5日、6日に国領川河川敷及び三喜浜公園にて実施しました。訓練では、河川敷法面等を活用して、土のうの作成、木流し工、表むしろ張り、せき板工及び堤防決壊防止の杭打ち積み土のうなど、実災害同様様に水防工法を実施しました。訓練終了後に参観者による水防工法の巡視を行い、工法の目的及び概要説明を実施することにより、改めて水防工法の重要性を確認いたしております。

毎年、全国各地で台風やゲリラ豪雨による洪水や土砂災害などの激甚化する大規模災害が発生しており、我々消防団には、災害現場における人命救助、捜索、避難誘導等多岐にわたる活動が求められております。「自らの地域は、地域住民とともに、自らで守る。」を新居浜市消防団の年間目標に掲げており、そのためには迅速かつ的確な活動を実施し、被害の軽減に努めていかなければなりません。

平成16年災害による被害の痛ましい教訓を今後忘れることなく、「災害に強いまちづくり」を目指し、地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在として、新居浜市消防団がより一層団結し、さらに研鑽を重ね、日夜、消防防災活動に全力で取り組み、市民の安心、安全を守ってまいります。



一般住民の防災活動等

砥部町自主防災組織の活動について



拾町地区防災組織

今井 駿也

砥部町は一級河川である重信川を挟んで松山市に隣接し、町の南部の山間部から流れる砥部川が盆地地形の北部にある重信川に注ぐ形で合流しています。私が住んでいる砥部町拾町地区は、重信川と砥部川の合流地点に近いので、災害に対する意識が高い地域でもあり、平成17年に自主防災組織を設立して以来、毎年防災訓練等に励んでいます。

こうした中、毎年5月に行われている地元消防団の砥部町水防工法訓練で、今年度は、近年の災害状況や今年の1月1日に起きた能登半島地震等を踏まえて、砥部町消防団167名、麻生地区の自主防災組織から各5名が参加し総勢202名で、消防団と自主防災組織初めての合同訓練として実施することとなりました。

この訓練における自主防災組織の目的としては、一つ目は土のうの作成要領と土のうの積み方の習熟を図ること、そして二つ目は地元の消防団員と自主防災組織の繋がりを作る事です。訓練では、消防署員も見守る中で、指導者として防災エキスパートの方や地元消防団の副分団長及び班長が指南してくれました。

自主防災組織は町内の隣接する地区同士で、2班に分かれて合同で訓練を行いました。小さな町ではありますが、普段は知らない者同士が、自主防災組織合同での土のう作成といった作業を共にすることで、技能の習得はもちろんなこと同じ目的をもって防災訓練を行うことでより「住民同士が共に助け合って」自分の住む地域を守っていくんだ、という意識が今まで以上に高まるのを感じました。

訓練で作成した土のうは予想より重く、そして、積んでいく作業も力仕事で、その上暑さもあって、想像以上に大変なものでした。土のうの積み方は「改良積み土のう工法Ⅱ型」というのも教えてもらい、水害時に土のうの持つ役割の重要性と、積み方によって違う効果が生まれることも知ることができました。指導者の方々の指示のもと、見事に積み上げられた土のうを見たときの達成感はとても清々しく、加えて、みんなで協力したからこそその連帯感も参加者全員が感じたのではないのでしょうか。



や、実際に作るころから積みまでを経験することで、自分の中の意識と自身の防災力の向上を実感できたことは、とても貴重な体験となりました。

今後自分たちの町を自分たちで守っていくために、こういった訓練の積み重ねが大事だと改めて感じ、また、共に町を守る仲間がいるのだという横のつながりをつくる貴重な機会となりました。これからも積極的に防災活動に継続的に関わって、取り組み続けたいと思います。

**扱いやすさと
タフな空冷エンジンを採用**

空冷式消防ポンプ

FT500
B-2級

FT450
B-3級

Fi(電子制御燃料噴射)に間接水冷ラジエータを搭載

水冷Fi式消防ポンプ

FF500ZXi
B-2級

FF450ZXi
B-3級

SHIBAURA

信頼と実績のキャブレタシリーズ

水冷式消防ポンプ

FK500 B-2級

FK450 B-3級

FK400 B-3級

シバウラ消防ポンプ愛媛県総代理店
(有)愛媛芝浦ポンプ商会
TEL.089-933-6355 FAX.089-933-9550
〒790-0911 松山市桑原2丁目3番19号

女性消防団だより



八幡浜市消防団

班長 攝津 眞澄



愛媛県の西端にある佐田岬半島の付け根に位置する八幡浜市は、リアス式海岸の海と段々畑の山に囲まれた、温暖で風光明媚な魚とみかんのまちです。柑橘を中心としたふるさと納税は、令和5年度寄付額が23億円を超え愛媛県1位を維持しています。また八幡浜製造のじゃこ天を使用し、スープは鶏ガラベースのカップ麺「愛媛八幡浜ちゃんぽん」は、ご当地産総選挙で1位を獲得するなど話題を集めております！

令和6年4月現在、八幡浜市消防団は1本部・13分団35部で構成されており、実員数は694人。そのうち団本部付け女性消防団員は昨年度より4名増え、14名となり賑やかな雰囲気でも活動しております。

1 防火パレードで手渡し!!「かまぼこ板お魚標語タペストリー」

いつも防災意識を持って生活して頂きたい想いから、八幡浜の名産品である「かまぼこ」の板を糸鋸で魚の形に切り、布を貼り、目を描き、その下に防火標語を吊して、タペストリーを作りました。幼稚園・保育所・小学校の子どもたちと防火パレードをする際、沿道で見守ってくださる地域の皆さんへお配りしています。昨年の全国女性消防団活性化石川大会でも、八幡浜のおいしいみかんと一緒に手渡しし、大好評でした!!

2 手話教室

災害時の避難所で活用できる!と市内

手話サークルの先生に教えて頂いています。単に手話を覚えるだけでなく、障がいについての正しい知識や特性を知り、相手に合ったコミュニケーションが必要であることを学びました。

3 近隣地区との交流

災害時 相互の協力体制が必要である事より、伊方町女性消防団の皆さんと交流させて頂いています。先月は、避難所運営ゲーム(HUG)を行いました。様々な想定の中でより良い対処方法を見つめるには、防災に関する日頃の学習や訓練が必要です。今後も地域の一助となるよう、互いに切磋琢磨してまいります。

4 防災工作・防災資料作り

毎月の定例会の中で、新聞紙のスリッパ・牛乳パックで作るカップやスプーン等、災害時に使える工作をしています。また、救急救命講習やAEDの使用方法・ローリングストック法や非常用持ち出し袋(女性・子ども・高齢者別)・防災工作・袋を使っている炊飯等の資料作りをし、必要に応じて地域の方に配布しています。

5 今後の活動

今年度20代・30代の若い年代の方々の入団がありました。今後は防災ダンスや、非常持ち出し品かるた等、より楽しい活動ができるよう工夫し、市民の防災意識向上に努めていきたいと思っております。



第34回愛媛県消防操法大会

日時 令和6年7月28日(日)
10:00~15:30

場所 重信川かすみの森公園北側河川敷

晴れ渡る空のもと、市町の代表16チームが出場し、小型ポンプ操法における日頃の訓練成果を競い合いました。

今回は、熱中症対策ならびに出場市町の負担軽減として午前と午後の二部制で大会を実施しました。当日の総指揮は、嘉村副会長(松前町消防団長)が務められました。

開会式は、篠原防災局長の開会のことばで始まり、第29回大会小型ポンプ操法の部優勝の伊方町消防団・三崎分団から優勝旗が返還されました。愛媛県知事から主催者あいさつが述べられ、県議会議長、市長、町長、村長、支庁長からご祝辞をいただいた後、選手を代表して西条市消防団・指揮者大澤吾郎さんから「今日まで一緒に協力してくれた仲間や、理解してくれた家族や職場の方々への感謝を忘れることなく、本日の操法大会を精一杯やりきることを誓います。」との力強い宣誓が行われました。

各チームは訓練成果をいかんなく発揮され、けが人もなく競技を終了することができました。

競技終了後、閉会式に移り、佐川審査委員長(学校長)から競技結果の発表の後、表彰が行われました。その後、戸田副会長(西条市消防団長)の万歳三唱、村尾愛媛県消防団長(松山市消防局長)の閉会のことばで大会は終了しました。

優勝 伊方町消防団 大久分団
2位 東温市消防団 第4分団
3位 松山市消防団 北条分団

各優秀選手は、次の通りです。
指揮者 東温市消防団 高須賀 誠
1番員 東温市消防団 大西 正之
2番員 東温市消防団 渡部 雅由
3番員 大洲市消防団 岩田 尚樹

優勝した伊方町消防団は、10月12日に宮城県総合運動公園グラウンドで、21で開催される第30回全国消防操法大会に出場します。

出場選手のみならず、各町のみならず、大変お疲れさまでした。みなさまのご協力により滞りなく大会が実施できましたこと心から感謝申し上げます。



災害に強いまちづくりをお手伝いします

家庭用からプロ仕様まで
消防・防災の専門商社

- ◎消防ポンプ自動車
- ◎消防ホース
- ◎防災・救助機器
- ◎避難用品
- ◎小型動力ポンプ
- ◎消防被服
- ◎消火器・消火装置
- ◎自主防災・企業防災用品



人と地球のいのちを守る
MORITA
消防ポンプ自動車No.1メーカー

新基準活動服
新基準による
消防団員活動服

SHIBaura
消防ポンプ・防災機器
シバウラ可搬消防ポンプ

ジェットホース
操法大会最適ホース
コンペVシリーズ

(株)岩本商会 〒790-0067 松山市大手町1丁目10番地1

Tel.089(947)2111 Fax.089(947)2116
高松支店/宇和島営業所/姫原倉庫 http://www.iwamotosyoukai.co.jp

最強コンビ



トーハツ VCPROIII

キンバイスーパースランナーホース



株式会社 ヤマダ

1910年創業



TOHATSU
小型消防ポンプVFシリーズ
電子制御 燃料噴射装置

株式会社 吉谷機械製作所
消防ポンプ自動車
化学消防自動車

テイセン
テイセン救助工作車
キンバイ消防ホース

YAMATO ROTEL
ヤマトプロテック
粉末(ABC)消火器

〒790-0062 松山市南江戸1丁目2番26号
TEL: (089) 947-2295 | FAX: (089) 945-3976 | www.yamada-pump.co.jp

「応募お待ちしております」

応募方法

所属学校もしくは各市町消防団担当へ提出ください。
提出期限 各市町消防団担当締切：令和 6 年 9 月 6 日（金）
表彰等 愛媛県消防協会入選者・賞状と記念品を贈呈

令和 6 年度防火ポスターコンクール図案募集

●募集の目的

生活協同組合全日本消防人共済会は、令和 6 年度全国統一「防火標語」守りたい 未来があるから 火の用心（以下「防火標語」という。）にあわせて、子供達が自由な発想でイメージし絵画として表現することで、正しい火の取扱いを考えながら火遊びや火災の防止に努めるとともに、防火に関する意識を高めることを目的とし、防火ポスターの図案を募集します。

●応募資格者

全国の 4 年生以上の小学生及び中学生

●図案の形態

①用紙は、市販の画用紙（四切）縦書き
②図案は、未発表のもので防火標語に合致するもの
③図案のみのデザインとする。

※防火標語のような文字が入っている図案や、パソコンやスマートフォンなどのペイントソフト等を使用した作品は、審査対象外とします。

第 24 回全国中学生「防火防災に関する」作文募集

●募集の目的

この作文コンクールは、自分の仕事を持ちながら地域防災のため日夜活動している消防団について、子供達が身近なふれあいや活動・体験を通じてどのように感じ、また受け止めているかを文章で表現することにより、地域と消防団との関わりを深め、自主的な防火防災の意識の高揚を図ると共に次世代の防災の担い手の育成を図ることを目的とします。

●応募資格者

全国の中学生

●作文の形態

①作文のテーマ
②作文のタイトルは自由
③用紙 400 字詰め原稿用紙（A4 規格）
④原稿の文字数 800 字以上 1200 字以内（ワープロ、パソコン等での出力も可）
⑤原稿用紙の 1 行目には作文のタイトル、2 行目には学校名、学年、氏名を記載し、本文は 3 行目から記載して下さい。

【皆さんとともに、地域を守る消防団】

各応募に関しては、お住いの市町消防団担当までお問合せください。

愛媛県消防大会当日、「ご披露できなかった消防団員 意見発表の内容を」紹介します。

女性消防団員に出来ること



東温市消防団 女性消防団員 西原 陽子

私は高校生のころから人の役に立つ仕事に憧れ介護福祉士になりました。就職してからも介護だけに留まらず日本赤十字社の応急救護講習会に参加するなど応急救護の知識を深めてきました。

結婚してからも、子育てを見守ってくださった地域の為に活動したいという思いから「防災士」を取得して、東温市でボランティア活動をしていました。

そんな時、知人から「女性消防団に入らない？」と誘われました。初めは全く乗り気ではありませんでした。熱心なアプローチが続き、断るに断り切れなくて、消防団に入団することを決めました。

父が消防団員だったこともあり、消防団の存在は知っていましたが、「女性の消防団員がどんな活動をしているのか考えた

こともなかったし、私に消防団の活動が勤まるのだろうか。」と不安な気持ちがたくさんありました。

いざ入団し、団員の方々と活動や訓練をするうちに絆も深まり、今では消防団員の活動が、日々の生活の中でちょっとしたアクセントとなり充実感を感じています。

今までの消防団員活動の中で感じたことは、女性団員は、火災現場や災害現場での力仕事においては、ほとんど役に立つことができないということです。しかし、災害現場には女性だからこそ出来ること、女性目線でのサポートを必要とする人がいるということです。

大規模災害が発生した場合、まず自分の家族の安全を確認したら、私たち消防団員は自分たちの地域を守るために、消火活動や救助活動を行います。災害からの救助活動が収束したとしても元通りの生活にすぐにもどれるわけではなく家を無くし日常生活がでなくなった方たちは避難所である程度の期間生活することになります。日常とかけ離れ、不安だらけで避難所生活

を強いられる人々にとって「東温市消防団」の活動服を着た消防団員が声をかけることで安心感を与えることができるのではないかと、また、女性団員なら悩みや不安を感じる人が気軽に話しかけることができ、被災者に寄り添った解決策を提示することができるとは思いませんでした。

普段の女性消防団員の活動は、イベントでの防火啓発活動や

消防団員加入促進の広報活動、救命講習が主な活動です。今後は、幼稚園や小中学校での避難訓練や消火訓練等にも積極的に参加し、子供たちはもちろんその親の若い世代へアピールし女性消防団員がいることを知ってもらおうこと、また、市内の事業所での訓練や市の防災訓練にも参加することで、地域の方にも女性消防団員をより身近に感じてもらうきっかけになると考えています。

一方で、私たち女性消防団員自身も事前に考えていかなければいけないことがあります。私たちは、大規模災害の際に、避難所の運営や後方支援の活動を行います。自分自身も家庭を持ち、被災した中で、どこまで団員としての活動を行うことができるのか？被災者にどう関わっていいのかわからないのか？悩みや不安がある人にどう対処していいのかわからないのか？今の東温市の女性消防団員の人数でどこまでできるのか？

課題はたくさんありますが、災害は決して待ってはくれません。平常時の今のうちに、訓練や情報交換等を積み重ね一つ一つの課題を乗り越えていきたいと思います。

私は、消防団員としての活動経験はあまり多くはありませんが、介護福祉士と防災士の知識と経験があります。この知識と経験を活かし、「女性消防団員に出来ること」を考え、仲間の消防団員と一致団結して地域の方のために活動をしていきたいと思います。

令和6年度 愛媛県消防協会役員等

(令和6年5月17日現在)

役職	氏名	所属
会長	大西 浩司	松山市消防団長
副会長	戸田 基	西条市消防団長 (東支支部長)
副会長	嘉村 重雄	松前町消防団長 (中支支部長)
副会長	梶田 浩	宇和島市消防団長 (南支支部長)
理事	武智 邦典	県市長会会長 (伊予市長)
理事	河野 忠康	県町村会副会長 (久万高原町長)
理事	前田 正樹	県民環境部防災局消防防災安全課長
理事	村尾 尚登	県消防長会会長 (松山市消防局長)
理事	小林 俊則	県消防長会 (上島町消防本部消防長)
理事	宇都宮 憲治	県消防長会 (西予市消防本部消防長)
理事	藤原 清久	今治市消防団長
理事	山内 敏男	新居浜市消防団長
理事	小笠原 貴雄	伊予市消防団長
理事	矢野 正祥	大洲市消防団長
理事	河野 通	西予市消防団長
評議員	橋本 武	県消防長会 (東温市消防本部消防長)
評議員	浅海 宏貴	県消防長会 (愛南町消防本部消防長)
評議員	加納 博幸	上島町消防団長
評議員	齊藤 久士	今治市消防副団長
評議員	續木 義也	新居浜市消防副団長
評議員	越智 建樹	西条市消防副団長
評議員	白川 英昭	四国中央市消防副団長
評議員	瀧内 光雄	久万高原町消防団長
評議員	松永 久富	砥部町消防団長
評議員	村田 省三	松山市消防副団長
評議員	高市 勝	東温市消防副団長
評議員	水口 泉	松前町消防副団長
評議員	菊池 秀夫	八幡浜市消防団長
評議員	岡和 彦	内子町消防団長
評議員	谷田 和也	伊方町消防団長
評議員	渡邊 広道	松野町消防団長
評議員	渡辺 正弘	鬼北町消防団長
監事	益本 三郎	上島町消防副団長
監事	渡部 政近	東温市消防団長
監事	坂本 譲司	愛南町消防団長

- 点検・報告・整備・工事
 - 消防用設備等・特殊消防用設備等
 - 防火対象物点検・防災管理点検
 - 防火設備点検
 - 連結送水管の配管耐圧試験
 - 消防用ホース耐圧試験
- 消防用機器等の販売
 - 各種消火器
 - 住宅用火災警報器
 - その他各種防災用品
 - 消防ポンプ自動車

～高度な技術で安心をお届けする～



株式会社 四国消防

〒790-0952 松山市朝生田町1丁目7番21号
電話 (089) 934-4800
FAX (089) 934-5533
E-mail : yons@ss4800.jp